

こんな活動です

ここから始まる新しい学校 ～地域が全力で応援し、学校の可能性を拓く～

東京都板橋区	●活動名	●関係する学校名
	舟渡小学校支援地域本部	板橋区立舟渡小学校

協働活動開始年度	平成 26 年度	学校運営協議会	指定・設置日	令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	放課後子供教室		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	1人	地域学校協働活動推進員等の数	3人		
ボランティアの数	延べ登録人数	100人	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	有
参考URL	http://www.ita.ed.jp/edu/hunades/					



●連絡先	板橋区教育委員会事務局 地域教育力推進課	☎ 03-3579-2619
------	----------------------	----------------

●活動の概要・経緯
地域が責任をもって子どもたちを育てる心意気を示す「舟渡の子は舟渡で育てる」は、地域の合言葉となっている。校庭が会場となつての盆踊り、町会の運動会が開催されるなど、学校がコミュニティのプラットフォームとなつてきた。町会が主体となつて全校の子どもへの「舟渡ラーメン」の会食会の開催など、学校支援の伝統は脈々と受け継がれてきた。また、平成18年から土曜日の子どもの居場所づくり活動「舟っこクラブ」は、地域の方々が企画運営を担ってきた。学校支援の組織化を図るため、平成26年に学校支援地域本部、さらに平成30年に板橋区のコミュニティ・スクール導入推進校となった。さらに令和2年度からは、学校支援地域本部とコミュニティ・スクール委員会が両輪となつて、新しい時代の学校の可能性を拓くための挑戦をしている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

本校では、2年生生活科の「まち探検」、3年生社会科の「工場見学」、4年生社会科の「リサイクルセンター見学」は学区内で行われ、引率はクラスごとに地域ボランティアが付き安全確保を担っている。平成29年からのキャリア教育は、NHKの人気番組「プロフェッショナル仕事の流儀」の地域版といえる総合的な学習の時間のプログラムである。地域コーディネーターが講師のリストアップや交渉を担い、様々な職種の方を招いている。さらに大学教員であるコミュニティ・スクール委員の協力のもと、毎年6名の早稲田大学の学生に来てもらい、交流を深めている。自己の将来を描くことにつながるこのプログラムは、保護者や高学年の子どもたちに大変に好評である。

【実施に当たっての工夫】

活動を充実させるためには、ボランティアのすそ野を広げ、多様な方の参加が重要である。冬季に学校の周りをイルミネーションで飾る活動では、男性のボランティアが活躍してくれるようになった。また、イルミネーションを鑑賞するため学校に足を運んでくださる地域住民が多くなり、学校への関心が高まってきた。

【関係機関・団体等との連携状況】

コミュニティ・スクール委員会では、学校支援活動の報告が行われ、課題についてはその場で解決に向けた協議が行われている。夏休みのサマースクールは地域図書館や企業と連携してワークショップ型の体験教室を毎年開催し、多様な人材に活躍いただくことによって、社会に開かれた学校づくりに寄与している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

活動のエンジンは、3名の地域コーディネーターであり、主任児童委員・青少年委員・本校の元校長と多彩な顔ぶれである。毎月のミーティングで、教員からの支援依頼を振り分け、1年生の下校支援、校外学習の引率、キャリア教育の講師依頼、読み聞かせ、栽培活動など、活動への人選をきめ細かく行っている。また、地域の印刷会社が無償で発行して下さる「学校支援ボランティア通信」はA4版両面カラーの本格的な広報誌であり、活動内容を地域・保護者に知らせ、理解を深めることにつながっている。現在は49号を数えている。

● その他

コミュニティ・スクール委員会は校舎の大規模改修の基本設計から参画し、学校が教育のみならず、防災やコミュニティのセンター機能も有するように提案するなど、新しい学校づくりに地域の英知を結集している。



冬休み学習会を運営する地域ボランティア



設計案を検討するコミュニティ・スクール委員